

## タイムラプスで遊ぶ 全周魚眼と直焦点タイムラプスの試み

今年も2月に西オーストラリアのワディファームへ星見にでかけました。最近では、1回の旅行で、1本のタイムラプス動画作品を作ることができるよう、コマ数稼ぎのためにカメラを撮りっぱなしにするのがいつものところ、今回は滞在が3日間と短かったため、ことのほか忙しい撮影になりました。(忙しかったのはカメラのほうですが)

タイムラプスで作品づくりとなると、対角魚眼とか超広角レンズで広い視野を狙うところ、前回のワディでは、少し外して標準系のレンズで緩やかに日周運動を描いていく星座を撮ってみましたら、結構微恒星が写りますし、緩やかに星が流れる中で、たくさんの人工衛星が通過していく様子も見えて、なかなかの仕上がりにになりました。

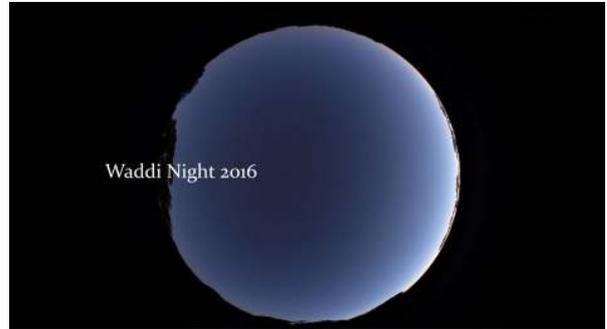
そして今年は、前回の好調に気をよくして、さらに両極端に走って、全周魚眼と直焦点によるタイムラプスを試みました。

全周魚眼のほうは、安原製作所のMADOKAを使用したのですが、それなりに面白い絵になるものの円形写野になるため、画面上で余白(余黒?)の部分が多すぎて、いささか迫力に欠けるため、課題の残る結果になりました。

一方で、直焦点によるタイムラプスは、Pentaxのツチノコ君を使って、南天の有名どころの星雲星団を狙う趣向にしました。

最近では星雲のような暗い天体でも超高感度の撮像素子を搭載してリアルタイムで淡い部分を写すことも可能などところに入ってきていますが、やはり、たとえ30秒でもしっかりと露出をかけた画像は色の乗りが違います。おまけに、高感度撮影で1枚撮りでは大した解像度のない写真でも、動画にすると人間の眼の方でコンポジットするのか結構立派な見栄えになりました。

さて、素材は揃ったところで、次は動画の編集です。広角系の写真が少なかったため、つなぎに苦労しそうです。



全周魚眼は動画的には寂しい感じです。



MADOKAで撮影した全天の日周運動

直焦点の撮影では、最初、極軸をあわせた状態で撮影してみたのですが、自動ガイドをさぼったためにピリオディックによる東西方向のブレだけが目立つあまり面白くない動画になってしまったため、方針を変えて、わざと極軸をずらせて視野が流れるようにして動きのある動画にしてみました。ただ、この撮影方法は、極軸のずらし方で画面がどっちにどのくらい動いていくのか直感的にわからないので、それは運まかせでした。(ちゃんと計算すればよいのですけどね)

なお、映像編集的には、撮影した視野の一部をクリップして移動させることで、ソフトで動きをつけることもできますが、なにせAPS-Cサイズのこと、画面の切り取りはモロに画質に関わるので避けることにしました。

タイムラプスによる作品づくりは、日本の空でもやりたいなあと思っはいるものの、オーストラリアのようにまとまって撮影する機会を作ることができないので、思うようにいきせん。これは、集中力の問題です。

## メカが大好き 安原製作所 MADOKA

表面でも紹介した安原製作所の MADOKA があります。円か(まどか)な画像を撮ることができるので MADOKA ということですが、あの有名アニメを思い出してしまうのは私だけでしょうか。

閑話休題。全周魚眼レンズというと結構高価なものが多いえに選択肢が少ないのですが、この MADOKA は、F4 と少々暗いものの、26,800 円とお手軽価格です。マウントは Fuji と SONY のミラーレス用しか用意されていませんが、ノープロブレム、手元の X-M1 とベストマッチで使うことができました。

全周魚眼なので星像の写りはかなり小さくなるものの、もともと X-M1 は解像度が高いので、結構微恒星まで写ってくれます。

ただ問題は、多くの全周魚眼の投影法は正距方位図法に近いものである一方、MADOKA は平射図法になっているという点です。そのため、円周

の端のほうの星座はつぶれたような形に写ってしまうということで、少々気になっていたのですが、実際に写してみると、思うほど歪もひどくなく実用十分でした。

使い途は狭いですが、この価格なら1本持っていて損にならない1本であります。



## Books & CDs STARWARS

STARWARS が帰ってきました。最初のエピソードⅣが日本で公開されたのが、1978年の夏で、私的には大学1年の夏のことでありました。あれからかれこれ37年と半年、パンフレットの登場人物の肖像を見るとレイア姫もハン・ソロもお歳を召して、行く年の流れを感じざるを得ません。

思い出してみると、最初の STARWARS がすごかったのは、ストーリーというよりは、つくりこまれたキャラクターやこれまでとは一線を画した特殊撮影技術やでした。当時は CG 以前のアナログによる合成とミニチュアの世界だったものが、エピソードを重ねる毎にデジタル技術が徐々に台頭して進化していく様子が、パンフレットを並べてみると良く見て取れて面白いです。それにしても、このパンフレット。並べてみるとエピソードⅤ、Ⅵのチープさが目につきますが、当時はそんなものだったのでしょ。

Ep3 から 10 年の時を経て、キャラクターもアイテムもすっかりと定番になっているところで、ディズニーさんの(商魂逞しい)取り計らいで、スピノフも含めて、今後次々と作品が公開される予定とのこと。

当分お付き合いが続くことになりそうです。



## 編集雑記

今回のオーストラリアは、連日好天に恵まれたため、3日間の滞在期間とはいえ、南天の星をしっかりと堪能することができました。

でも、タイムラプスにかまけていた関係で、実は、静止面のほうはさっぱり収穫を得ることができませんでした。

持って行った機材の多くが、単なる錘になってしまったわけで、事前の計画に反省点の残る遠征でした。

\_Wada 和田一人 [Kazuto.wada@nifty.com](mailto:Kazuto.wada@nifty.com)